

昭和58(1983)年6月 第5代 井上 明生 教授就任



Chiari骨盤骨切り術を執刀する井上教授



回診中の井上教授



平成2(1990)年12月9日同門会

平成7(1995)年 11月10,11日 第22回日本股関節学会主催

主題は、「成人の麻痺性疾患に伴う股関節異常に対する治療」、「若壮年期、末期股関節症に対する骨頭温存手術」の2テーマであった。また、多職種連携の先駆け的取組みとして、理学・作業療法士と看護師などコメディカルセッションを実施、医師部門515人、コメディカル部門300人と多くの参加者があった。



井上 会長挨拶



会場の久留米市文化センター

平成7(1995)年 11月10,11日 第22回日本股関節学会主催

わが国の股関節外科を代表する多くの先生方が出席され、活発で有意義な討議が行われた。小宮先生は主催者側として、進行担当である。



宮岡先生



樋口先生



土方先生



小宮先生



井手先生



糸満先生



杉岡先生



高岡先生



久保先生



第5代 井上 明生 教授 昭和58(1983)年～平成12(2000)年

大阪大学より赴任、17年に亘り教室を主宰。
キアリ骨盤骨切り術、関節温存手術で顕著な業績を
上げた。関節温存をライフワークとして取り組む。

私は赴任した当初から、まず臨床面で筑後地方のセンター的存在になるべきだ、と主張してきました。基礎的な研究テーマは、症例を重ねる中で生まれてくるもの、必然性のあるものに取り組もう、ともいつてきました。それを実行するために専門外来に準拠したグループ分けをしました。設けた専門外来は股関節、脊椎、手の外科、骨病および腫瘍、外傷、リウマチ、小児整形、足の外科、スポーツ外傷などです。研修終了後、大学で勤務するものはどこかのグループに属して、専門外来に参加するようにしていました。

久留米大学における最後の数年間は、Chiari骨盤骨切り術を基本とする股関節温存手術の成績向上のため、手術方法に工夫を加えることに専念しました。いとも簡単に人工関節に置換される風潮になんとかはどめをかけたい、と思いました。久留米で仕事を始めた当初、これが私の最後のテーマになるとは想像もしていませんでした。多くの変形性股関節症の受診患者さんがありました。

この17年間、私はコメディカルを含む多くの人に支えられて仕事を続けてきました。臨床講座ではまず最初に、患者さんが来てくれないことには進歩が望めません。このような臨床面の忙しさの中から、優秀な人材が育って行ったことを考えれば、大学人にとって臨床面での忙しさは必ずしもマイナスでは無かった、ということを示していると思います。